

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
 〒606-8501
 京都市左京区吉田本町
 075-753-5270
www.rakuyukai.org

黄金の10年

東京支部前支部長 平川 明 (昭57年卒)



1. 始めに

本年6月まで洛友会東京支部の支部長を務めました、平川と申します。

私は、昭和57年学部卒業、昭和59年修士課程を修了し、日立製作所に入社しました。ただ、最後まで会社人生を全う出来ず、入社15年で退職し、その後は、弁理士として依頼者に知財サービスを提供することを行って参りました。一般的な電気系教室の卒業生とは、異なる人生を歩んできたと思われ



ます。

私の現在の京大関係での交友は、この洛友会、研究室(板谷研)、剣道部で知り合った方々とのものです。これらの知り合いのうち、同期の中には、現在も第一線で活躍されている方もおられますが、ちょうど今頃、大半の方は定年を迎えて、次の人生に軸足を移しつつあります。私自身も、その大半の方に属します。数年前までは定年を意識することは少なかったですが、いざ定年を迎えてみると、予想外に、あるいは予想通り、居心地のいい状況であることを認識しています。私の同期の中には、これからの黄金の10年だ、という方もおります。定年を迎える60歳から74歳までを黄金の15年とすることが意図もあるようです。その意味は、やっと自分の時間を十分に確

保できるようになり、子供も独立して金銭的な余裕もでき、かつ、体力はまだまだ十分なので、残りの人生は、時間とお金と体をやりたいことにつき込んで、楽しい人生を送ることができる10年、あるいは15年であるというような意味と思われまます。

さて、この黄金の10年をどのように過ごしていくか、私個人のぼんやりとした認識あるいは希望のようなものを述べます。すでに黄金の10年を経験された先輩諸兄には、支部の懇親会などの機会に、さらなる助言をいただけるようであれば幸いです。

2. 黄金の10年で基本となる要素
 基本は、幸福感、満足感、充実感のある生活です。やりたいことを無理なくやれる環境で人生を過ごしていきたいです。そのような人生の要素は、趣味と、ある程度の負荷の範囲での好きな仕事と、健康と、大切な人との関係であるかと考えています。

3. 仕事は、そこそこ、やりたい
 まず、今後の仕事についてです。すでに述べましたように、私は弁理士として、主に特許出願業務を行っております。元々、前職を退職した理由も、メーカーの技術者としての組織の中で大きな仕事よりも、弁理士業務のように職人的

または細かい専門的な業務に引かれたからでした。実際、特許業界に入ってみると、結構自分の特性にあった仕事ではあったと思えます。

ちょうど、ビジネスモデル特許が騒がれ始めたところで、私の師匠であった松倉弁理士が日本でのビジネスモデル特許の先導者であったため、弁理士になって、かなり恵まれた環境で研鑽を積むことができたと考えています。

ただ、その後、予想以上に仕事の負荷が大きくなっていきました。この頃、小泉内閣が規制緩和を唱え始め、弁理士においても、業界の標準料金が禁止され、かつ、合格者数が数倍に増加していきま後、知財活動が活発になって、知財業務が増加する、ということであつたと思います。しかしながら、その後、バブル崩壊、さらに失われた30年となりました。また、私達が大学を出るころ、電子立国日本など、とよく言われていた本などが、その通りには進まず、特許出願件数の出願ランキングで上位を占めていた電機メーカーからの特許出願が激減していきました。つまり、弁理士の人数は数倍に増える一方、業務量はどんどん減少する時代となりました。

そうすると、業界の中での生存競争が熾烈となります。このため、弁理士業務においても、出願人である顧客から徐々にプレッシャーを感じて行きました。様々な評価基準が作成され、評価の低い弁理士、あるいは、弁理士事務所は、依頼を受けることができず、廃業する方もいました。私自身は、幸い、なんとか業界に踏みとどまりました。ただ、何人かの知り合いから、子供を弁理士したいがどうか、といった相談を受けましたが、これまで、ほぼすべて、ネガティブな返答をいたしました。また、自身の子供達にも、職業としては、弁理士を勧めませんでした。

また、他の業界と同様、業務年数が増加するとともに、管理業務が増加していきました。業界の競争が厳しい中で、現顧客との信頼関係の維持、新規顧客の獲得、新規人材の獲得、獲得した人材の教育等様々な管理業務と、特許出願等の本来の弁理士業務の両方で一杯でした。このため、前職の日立時代にやっていた趣味のスポーツクライミングはほとんど無理となり、40歳台から50歳半ばくらいまでは、ほとんど、休日も仕事をしていたように思われます。50歳半ばになってやっと、少しづつ、趣味の時間を増やして行きました。

65歳を超えて、弊所ウェブサイ
トでは私は「理事」という役職で
すが、実際は嘱託として一人の勤
務弁理士として業務を行っていま
す。そうすると、特許事務所の管
理業務は、ほぼ、職務範囲外とな
りました。また、皆様ご存知のと
おり、年金との関係から、あまり、
高給をもらっても、年金が削減さ
れる結果となるので、若い頃のよ
うに、ガツガツ仕事をさばいて、
売上げを上げ、高い報酬を得る、
という必要もなくなりました。

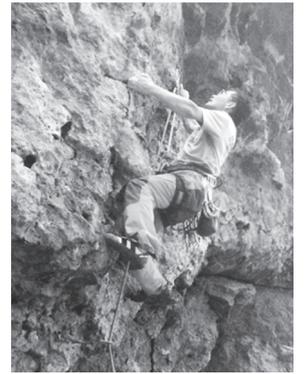
そうすると、時間に追われずに
自分の納得のいくように本来の弁
理士業務を行えるようになりまし
た。また、現経営側と相談して、
ある程度希望に合わせた業務量で
仕事を受けことができるようにな
りました。特許業務の大半は、発
明者の発明を適正で強い権利が取
得できるように特許出願の明細書
に表現するというもので、職人的
な、1つ1つがこぢんまりした仕
事です。今、やっと、この職人的
な業務に復帰できた、との実感を
もって職務に取り組むことができ
ています。

ただ、顧客のご都合もあるため、
スケジュールが切迫することもあ
ります。先に特許出願した出願人
が権利を得る事ができるといふ特
許制度の下では、顧客指定の期限

が発生することは、この業界では
当然のことで、嘱託勤務者も当然
にそのスケジュールに対応する必
要があります。また、私が担当す
る電子情報通信の分野は、技術の
実態、あるいは技術の概念はそれ
ほど変わらないにしても、用語が
どんどん変化して行きます。また、
標準規格がどんどん提案されてい
きます。このような技術の表面的
な変化に惑わされずに、追従して
いく努力は必要と考えています。

4. 趣味のスポーツクライミング
は目一杯やりたい
私の趣味は、スポーツクライミ
ングです。山に登るのではなく、
屋外の岩場や屋内の人工壁に登り
ます。写真は、私のLINEのプ
ロフィール写真で、6年位前、群
馬の有笠山という岩場のルートを
登ったときのものです。

若者に交じって、アクロバティッ
クとは行かないですが、ボルダリ
ングもやっています。学生時代、
吉田キャンパスの石垣をよじ登っ
ている人達を見て、全くついて行



けない、理解不能との印象を持ち
ましたが、今は、その仲間になっ
ています。

元々、就職したときに、水戸市
内の山岳会に入会し、山登りを始
めました。その後岩登りにはまっ
て、最終的にはスポーツクライミ
ングになりました。今は、クライ
ミングをするために生きている、
という状況です。

何が面白いのか、と言いますと、
登るルート（課題ともいいます）
により難易度があり、それまで登
れなかった難しいルートを突破し
たときの喜び、他の人が登れない
のに自分が登れる優越感のような
ものを感じることはないかと思
います。

今後、黄金の10年は、スポーツ
クライミング中心で行きます。海
外では、これまでフランス、アメ
リカで登りましたが、早い時期に、
オーストラリア、スペイン、ドイ
ツなどの有名エリアにできれば毎
年のように行きたいと考えていま

す。
海外の難関ルートに挑むには、
やはり日々のトレーニングが重要
で、いろんなエリアを訪問するこ
とを考えると、モチベーションが
湧いてきます。ただ、毎日クライ
ミングすることは、体に良くない
といわれており、1日登った後、
48時間休息をとることで、筋肉が
ほどよく発達すると聞いていま
す。そのため、私の生活は、クラ
イミング中心の日があつて、その
後、体を休めるために仕事をそこ
そこ、やつて、またクライミング
をやる日がある、というパターン
に徐々になつてきています。まさ
に、趣味と仕事のバランスがとれ
た状況になりつつあります。



5. 健康
黄金の10年をうまくやっていく
には、健康が重要と考えています。
健康に過ごすため日々の食生活に
も少し気をつけていますが、健康
診断は毎年確実に受けています。
その健康診断で苦い経験がありま
す。

私は、20年以上に渡って、健康診
断のピロリ菌検査（血液検査）で陰
性でした。それですつと安心して
いたのですが、ある機会があつて、胃
カメラ検査を受けたところ、診断し
た医師から、こんなひどい胃の状態
でピロリ菌がない訳がない、と見
解をもらつてしまいました。

そこで、除菌してもらえる病院
で別の検査（呼吸検査と記憶）で
は、なんと陽性でしたが、なんと
か、除菌に成功しました。翌年の
胃カメラ検査では、さぞ良い結果
がでるだろうと臨んだのですが、
今度は、診断した医師から、長年
のピロリ菌の影響であなたの胃の
粘膜はほぼ消失している、いつ胃
癌になつてもおかしくないの、
毎年胃カメラ検査を受けるよう
に、との宣告を受けてしまいました。
た。このようなことがあり得るこ
とを皆様に伝えたく、紹介した次
第です。ここは、なんとか耐えて、
黄金の10年を乗り切る覚悟です。

なお、私は学生時代に、医学部

の研究だったと思いますが、ある薬を1ヶ月飲み続けて胃カメラ検査を受けるというバイトをやりました。そのときは、ゲーゲーやりっぱなしで、結局真つ当なデータがとれなかったようで、一発で首になりました。現在では、鎮静剤の点滴を受けると、スーと意識がなくなるので、ゲーゲー苦しむことも無くなりました。

ちなみに、私は、大腸内視鏡検査も数年に一回の割合で受けていますが、必ず、数個のポリープが見つかり除去してもらっています。

ただ、大腸内視鏡検査では、医療ミスも発生しているようで、信頼できる医師を見つけることも重要なようです。私の妻の知り合いは、危うく、大腸に穴が空きそうになり、一時人工肛門も覚悟したとのことです。

健康面を大事にしようとしても、いろいろ落とし穴がありそうですが、黄金の10年を上手く乗り切っていきたいです。

6. 大切な人との関係

これは、かなり個人的な話題となりますので、うまく書けません。電気系教室の友人の他、4年間一緒に過ごした剣道部の仲間がとても大事な友人になっています。どちらかというところ、剣道部の方がやんちゃな連中が多く、彼らとの

交友がとても大事なものとなっています。また、私は、瀬戸内海の淡路島の出身なのですが、幸い、東京で中学および高校の同窓生二人と会える機会を作り、関係を維持することができました。かれらとの交友も大切にしています。

家族に関しては、子供達はそれぞれ独立していますが、会える機会を大切にしています。一方、家庭は妻と二人となっています。うまくやっけていけるか、と心配した時期もありましたが、なんとかやっけていけそうです。

7. 最後に

以上、勝手な取り留めもないことを書いてしまいました。最初にも述べましたが、洛友会の懇親会などでご意見をうかがえると幸いです。最後に、皆様のご健勝とさらなるご活躍を祈念いたしております。



本部だより

洛友会本部役員会報告

令和6年度役員会は、去る5月11日(土)正午より、京都タワーホテルにて、顧問、会長、副会長、9支部長(代理を含む)、本部役員合計18名の出席を得て開催されました。役員会は、昼食を済ませた後、松本会長の開会挨拶で始まり、萩原事務局長の司会で進められました。

まず、令和5年度事業報告と同決算、令和6年度事業計画と同予算案、役員の改選がそれぞれ審議承認され、総会に提案されることになりました。また、5名の推薦会員が承認され、洛友会報の原稿依頼が承認されました。

引き続き、支部活動の状況が各支部から紹介され、意見交換を行いました。各支部もその規模に応じて会員向けのさまざまなイベントを開催し、若手会員の掘り起しや会費納入率の向上に取り組んでいます。その中で、支部会員の高齢化や数の少なさから、長く培ってきた歴史の継承をいかに行っていくかに腐心している支部がある一方で、コロナ禍以降のことかも知れない状況として、逆に高齢者

の支部総会への参加が減少傾向にあるものの比較的若い会員の参加が見えてきている感もあるような(必ずしも都市部ではない)支部の状況の報告もありました。昨年同様、支部ごとの事情が様々である様子も見え隠れするような結果であったといえると考えます。なお、昨年度の報告で触れました支部交付金の増額に関して、その後、メール審議にて承認されておりましたが、その点に関する確認もこの機会に行いました。いずれにしても、各支部において、その地区に在住の会員の把握は重要な課題となっておりますので、とくに地方に就職、転勤や移住した会員は、是非とも支部への連絡をお願い致します。

推薦会員

- (令和6年5月11日承認)
- ・電気工学専攻 吉井和佳 教授・情報学研究科 (2008年博士)
- ・電子工学専攻 池田敦俊 助教・理学研究科 (2020年博士)
- ・知能情報学コース 櫻田 健 准教授・東北大学 (2015年博士)
- ・通信情報システムコース

上野 嶺 准教授・東北大学 (2018年博士)
劉 昆洋 助教・早稲田大学 (2021年博士)

洛友会本部総会報告

令和6年度本部総会は5月11日(日)午後、京都タワーホテルにおいて、関西支部総会に引き続いて開催されました。会員53名の出席があり、令和5年度の事業報告と決算、令和6年度の事業計画と予算案、役員の変更がそれぞれ承認されました。

萩原事務局長よりあわせて洛友会本部報告がなされた後、続いて、今年度より電気電子工学科科長を務める下田幹事より電気系教室の現況紹介がなされました。令和5年度の活動事業として、洛友会および電気系教室主催の先輩と学生との交流会や電気系教室懇話会の様子が紹介されました。この2つの会を同じ日に連続して開催するという新たな実施形態を本年も踏襲し、本年も11月祭の際の講義休講日を利用して開催とすることも案内されました。また、洛友会が後援しているエレクトロニクスサマーキャンプについての様子や学内の教員異動状況などが紹介されました。さらに、洛友会ホーム

ページやそこから利用可能なWEB名簿管理システムについて、簡単に説明がなされました。最近では個人情報扱いの厳しさから、洛友会会員の新人社員がいるか否かを把握すること自体が容易でないという話も耳にしますが、そういった情報の検索にも是非ご利用いただきたいと考えますし、そのためにもデータのアップデートも皆様にお願いたいと思います。その他、現在の京都大学の吉田キャンパスと桂キャンパスの風景の紹介や学生の就職状況の報告などが行われました。

なお、支部活動等の活性化と密接に関連する取り組みとして、1件あたり最大5万円の学年クラス会・支部活動費等補助の申請を以前より受け付けておりますが、申請が必ずしも多くない状況です。この取り組みをより利用しやすいものとするために昨年より始めております取り組みを、この場を利用して改めてお知らせしておきます。具体的には、本制度の趣旨に合致する会合について、開催後の申請であっても受理する場合があります。申請の締め切りは毎年3月末日と9月末日になっておりますが、例えば9月末日の締め切りに向けて、1回前の締め切り日の翌日の4月1日以降にすでに実施

済みのものに関しても申請いただくことが可能ということになります。開催後、もしくは承認後、30日以内に洛友会会報に掲載するための開催記事を送っていただくこととなりますが、是非ともご検討ください。申請書は事務局に依頼いただければ送付いたします。洛友会活動のさらなる活性化につながることを期待いたしております。

役員の変更

令和6年度の役員は次の通りです。

顧問	昭41	荒木 光彦(現)
会長	昭40	松本 紘(現)
副会長	推薦	川上 養一
幹事	昭56	北條 博史(現)
	昭57	福田 隆(現)
	昭50	北野 正雄
	昭56	和田 修己(現)
	昭57	野田 進(現)
	昭59	萩原 朋道
	昭62	下田 宏
	平16	佐藤 高史(現)

会員寄稿

私の住む長岡京市の

見どころの紹介

題府 武史
(平6年卒・関西支部)

私は平成6年に京都大学工学部電気工学科を卒業後、関西の鉄道会社に就職しました。現在は、自社沿線で京都と大阪の間にある京都府長岡京市に住んでおり、今年で25年目になります。

長岡京市は、弟国宮と長岡京と2回も都が置かれた稀有な土地で、歴史的に重要な史跡や古墳などがたくさんあります。私は、2年前より、長岡京市ふるさとガイドの会(以下、「ガイドの会」というボランティア団体に所属しており、長岡京市にお越しになった方のご案内、ガイドの会のホームページ編集・SNS発信などの活動をしております。

今回は、私の住んでいる長岡京市の見どころをご紹介します。

1. 勝竜寺城公園

土日・祝日は、勝竜寺城公園(現在の地名は勝竜寺、城の正式名は勝龍寺城)にガイドの会のボランティアガイドが常駐し、お客様をご案内しております。勝龍寺城は江戸時代に廃城となったため、ほ

とんど知られておりませんが、1992年の長岡京市政20周年記念事業にて勝竜寺城公園として整備されました。管理棟2階には展示室があり、細川藤孝・忠興・ガラシヤの関連パネルや勝龍寺城に関する資料が展示されています。「細川家はじまりの城」、「細川ガラシヤお輿入れの城」、「明智光秀最期の城」であり、歴史好きの観光客の方がたくさんお越しになります。

このあたりの地形は、天王山と男山の間の狭い平野部を淀川が流れ、河川近くには湿地帯が広がっていたため、大阪から京都に入る



には、勝龍寺城付近を通過しなければならず、古くから交通の要衝、京都防衛の要でした。

応仁・文明の乱では西軍(畠山義就)の拠点となり、戦国時代には、織田信長が上洛し、このあたりを攻略しました。これにより、1571年に細川藤孝に勝龍寺城が与えられ、細川家は初めて城持ち大名となりました。細川藤孝は、京都防衛の要衝にある勝龍寺城を織田信長の命を受け改修します。当時最先端の「瓦・石垣・天主」を備えた城で、その後、安土城などにも採用され、近世城郭の原点ともいえる城づくりであったことがわかっています。

1578年、近江坂本城主であった明智光秀の娘・玉(のちの細川ガラシヤ)は、織田信長の仲介で細川藤孝の長男・忠興のもとにお輿入れします。1580年の丹後八幡山城(宮津市)への国替えまでの2年間、勝龍寺城で幸せな新婚生活を過ごしました。

1582年6月2日、明智光秀は本能寺の変を起し、主君の織田信長を倒しますが、6月13日に山崎合戦(天王山の戦い)にて豊臣秀吉に大敗いたします。明智光秀は勝龍寺城に逃げ込み、その夜、近江坂本へ落ち延びる途中に農民の落ち武者狩りにあい、落命しま

した。

毎年11月の第2日曜日には、「長岡京ガラシヤ祭り」が盛大に行われます。ガラシヤのお輿入れを再現した「ガラシヤお輿入れ行列」などのイベントが開催され、毎年10万人を超える観光客で賑わいます。

2. 長岡天満宮

長岡天満宮の大鳥居からの参道には、樹齢約170年の市の天然記念物「キリシマツツジ」が植えられており、4月下旬には濃い鮮紅色の花を咲かせ、見事な景色を楽ませてくれます。この時期は、大勢の観光客で賑わいます。

長岡天満宮の祭神は学問の神様、菅原道真公です。このあたりは道真公の荘園であったらしく、在原業平らとともにこの地で詩歌管弦を楽しまれたと伝えられています。道真公が太宰府に左遷されたとき、この地に立ち寄り3名がお供しました。道真公は、お別れの際に、自分の姿を彫った6cm余りの木像をお供の3名に贈り、道真公の死後、この木像をご神体として祀ったのが、長岡天満宮の始まりと言われています。

3. 光明寺

JR東海の「そうだ京都、行く。」キャンペーンで紹介され、京都屈指の「紅葉の名所」として知

られています。初夏はさわやかに瑞々しい新緑に包まれ、秋とは違った清々しい景色を楽しめます。1175年、法然上人が浄土宗を開き、初めて「南無阿弥陀仏」のお念仏の教えを説かれたのが、この地です。南無阿弥陀仏と一心に念仏を唱えることで救われるという「専修念仏」の教えを説き、出家して修行したり、寺社に寄進したりすることのできない庶民に広く支持されました。当時の日本で、限られた一部の人のためであった仏教が、民衆へと広まるきっかけとなったのです。

1198年、平家物語で知られる蓮生法師(熊谷次郎直実)が建てた念仏三昧院が光明寺の発祥と伝わります。1184年、源平合戦の1の谷の戦いで、熊谷次郎直実は自分の息子と同じ年ごろの平敦盛を討ち取ってしまったことに、武士の無常を感じます。積もる罪業を償うため武士を捨て、極楽浄土を求めて法然上人を訪ね、仏門に入ったと伝わります。

1563年、正親町天皇から「法然上人の遺廟光明寺は『浄土門根元地』というべし」との綸旨を賜り、浄土一宗の御本廟と定められました。御影堂の裏には、法然上人が眠る御本廟があります。

4. 乙訓寺

乙訓寺は、「牡丹の名所」として有名で、4月中旬から下旬頃には、約30種2,000株の牡丹が見ごろを迎えます。

乙訓寺は京都最古とされる広隆寺(603年創建)と同時期の創建で、推古天皇の勅願を受けた聖徳太子が開いたとされ、784年、桓武天皇が長岡京に遷都した際に乙訓寺を大増築したと伝わります。長岡京遷都の翌年の785年、造長岡宮使の藤原種継の暗殺事件に関わったとして、早良親王(桓武天皇の実弟)を乙訓寺に幽閉しました。親王は身の潔白を訴えましたが、淡路島へ流罪になり、道中で絶命してしまっています。その後、天皇の周りで不幸が相次ぎ、早良親王のたたりと恐れられた天皇はわずか10年で都を長岡京から平安京へと遷都したともいわれています。

また、「弘法大師ゆかりの寺」として知られており、811年、弘法大師(空海)が嵯峨天皇から任命されて、乙訓寺の別当を務めました。翌年には、伝教大師(最澄)が乙訓寺を訪れ、空海と密教についての法論を交わしたと記録が残っています。

5. 柳谷観音(楊谷寺)

柳谷観音は、「花手水の発祥地」と言われており、2017年に手

水舎に季節の花を浮かべたところ、華やかで美しいとSNSで評判を呼び、ほかの寺社にも広まってきました。柳谷観音の花手水は定期的に入れ替えられており、SNSで情報発信され、ホームページではライブ映像を見ることがもできます。

また、「あじさいの名所」としても知られており、境内には「あじさいのみち」と呼ばれる参道があり、27種類・約4,500株のあじさいが奥の院まで植えられています。毎年6月1日〜30日には「あじさいウィーク」が開催され、大勢の観光客で賑わいます。

境内の独鈷水は、今も眼病平癒の霊水として信仰を集めています。乙訓寺の別当を務めた弘法大師(空海)も度々参拝され、お堂のそばの水で親猿が眼のつぶれた子猿の眼を洗っている姿を見て、17日間の祈禱をしたところ子猿の眼が開いたといわれています。空海はこの不思議な湧き水を独鈷で掘り広げ、さらに祈禱を施し、眼病に悩む人々のために霊水にされた、霊験あらたかなる湧き水です。境内の上書院は、明治時代後期の建物で、かつて特別な方のみをお通しする茶室として使用されていました。上書院から眺める緑の青葉や真っ赤に色づいた紅葉は、

まるで絵画のような美しさです。「日本のいちばん長い日(役所広司・本木雅弘・松坂桃李ほか)」「駆込み女と駆出し男(大泉洋・戸田恵梨香ほか)」などの映画のロケ地として使われました。

終わりに
長岡京市は、観光地としては、あまり知られておりませんが、今回ご紹介した5カ所以外にも、たくさん見どころがありますので、ぜひ、お越しください。



鉄道の交流電化技術の開発

橋本 道哉

(昭33年卒)



私が学生の時に4人の同期生が国鉄の技術研究所で学外実習をやっていたいただきました。私と安原硬人さんは自動制御研究室で実習を行いました。林千博教授が陣中見舞いに東京まで来て激励してくださり、技研の幹部にも挨拶して下さいました。

実習が終わってから国鉄の洛友会の先輩が慰労会をしてくださいました。指導者は親切に指導してくれ、研究内容にも非常に興味を持ってたので卒業したら入社したいと希望を伝えて帰りました。暫くしたら入社を歓迎するとの返事を頂き、3人が入社しました。

実習の受け入れ責任者が関電気局長でした。彼は交流電化を開発された技術者で、私が国鉄に入社してからずっと指導をしてくださいました。国鉄を退職されてからも懇意にしてくださいました。彼は直流電化に比較して長所が

多い交流電化を開発するために調査チームを編成して、既に交流電化を実用化していたフランス国鉄に調査に行かれました。調査チームには各分野の有能な技術者の他に、後に国鉄総裁になった東大法学部卒業のエリートの磯崎文書課長を連れて行かれました。当時は国鉄では事務系が力が強く、交流電化の開発も事務系の支援が必要

なので、フランスの国鉄の現場だけではなく、名所旧跡も見学してもらったそうです。フランスを知ると、彼はすっかり交流電化のファンになってくれました。普通の技術者ならそんな発想はできません。フランス国鉄が交流電気機関車を売ろうとしたが、チームは調査だけを行って購入は断つて帰国されました。当時の国鉄総裁はそれを大きく評価し、信頼を得たそうです。

日本に帰ってから、どこからも反対も無く、自分の力で日本に最適な交流電化を完成されました。交流電化が開発されていなかったら東海道新幹線は実現しませんでした。国鉄は基幹通信回線の電磁誘導対策の一環として、電電公社に先駆けて基幹通信回線のマイクロ波化を実現しました。私はそのプロジェクトに参加しました。

関局長が私に与えてくれた貴重な

助言が私の鉄道電気技術者としての人生を大きく変えてくれました。

その助言は、「どんなに有能な技術者でも新しい技術開発を行うことに躊躇する。できたら自分は逃げて他の人に押し付けたい衝動に駆られる。しかし電気鉄道技術者は技術者の常識で、その開発課題が全く実現不可能であるか、努力すれば成功するかは分かる。努力したら開発できそうなものは全部引き受けている。一回逃げると一生逃げ癖が付く。」と教えてくれました。こんな有能な技術者でも新しい課題を目の前にされると腰が引けて躊躇するが、それを克服して開発に従事されていることを知りました。それ以降、私もどんな課題に対しても、私が逃げたら誰がやるのかと自問自答してチャレンジ精神を掻き立てて逃げないよ

うに心掛けました。私の子から孫へとこの貴重な関先輩の教えを伝えたいと思います。こんなに立派な業績がある先輩に巡り会えてご指導を受けたことがこの上ない幸運でした。巡り会いは重要です。人生を左右します。

以下に交流電化の主な長所を記すと、送電ロスが少なく地上設備のコストが低い

同一電力を送電する場合のロスはおおむね電圧の2乗に反比例するので、電圧はできるだけ高くした方が送電には有利である。同じ電力を送るのに架線で失われる電力損失が少なくて済むことから、交流電化は直流電化に比べ変電所の間隔を長く取ることができる。

大容量送電が可能

交流は高電圧を用いることから、直流に比して小さい電流での送電が可能である。そのため、負荷電流が直流方式と比べて1/10以下になり、電車線は細いものでもすむしたがって、大きな出力を必要とする電気車両への大容量送電に適している。新幹線は高速走行で大量の電力を必要とするため、交流電化を採用している。直流では新幹線の実現は無理である。

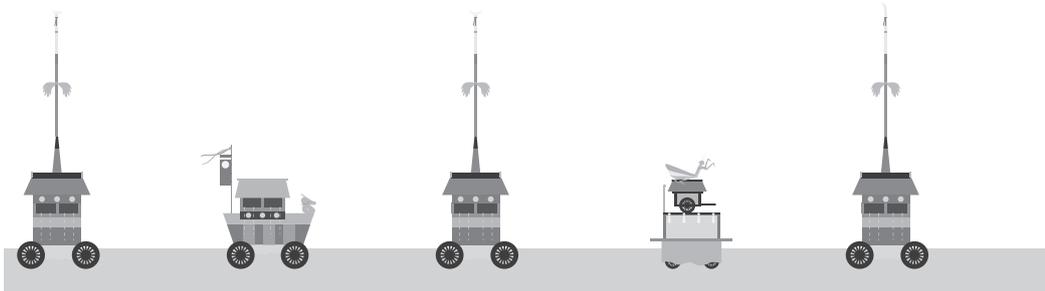
電動機起動制御のロスが少ない

抵抗制御を用いた直流車では、主電動機に与える電圧を制御するため、抵抗器を用いて一部を熱として捨てている。これに対し交流車では、電圧を直接制御できるタップ制御やサイリスタ制御が基本となっており、無駄なく電力を利用できる。

粘着係数が高く車輪が空転しない

交流車は粘着係数が高いという長所を持つ。直流車では低速で電動機を直列につなぐが、電流一定

のために、ある電動機で空転が始まってもトルクが下がらず回転数がむしろ上がる。一方交流車では一般に並列接続であるので、回転が上がるとその電動機に流れる電流が減少してトルクが下がり、容易に再粘着する。



同窓会だより

64周年クラス会20名
母校赤レンガ前に集う
昭和35年卒

1 クラス会「35洛友」

昭和35年に電気50名、電子30名計80名が卒業したクラス会「35洛友」が、当初は5年毎に研究室で指導いただいた先生方にも宇治や箱根にまで足を運んでいただき、我々の就職先での活動報告会から始まった。苦闘の数々に耳を傾けながら清野先生（1914～2002 計算機工学）から「君たちは今大変忙しいだろうが、この時代から①金がかからず、②1人で出来て、③時間がたつぷり必要とする趣味を持つておくことが人生を豊かなものにするよ」とお話しいただいた。それから半世紀以上経過し、人生100年時代の到来、クラス平均87歳に達した現在、恩師の言葉の重みを痛感しているこの頃である。

2 春爛漫の京都

「35洛友2024京都」開催

5年毎のクラス会が近年はより密度高く2年毎に短縮し、直近では2018年に鴨川の棧敷で夏の京都を楽しんだ。その折次回はオリンピック後の新しい東京を2020年秋に東京組が案内することとしていたが、折からのコロナ禍で延期のまま6年経過した。コロナの一巡で再開することを決意し、2024年4月8日に九州から関東に至るまで全国から20名が旧電気教室の赤レンガ前に集合した。電気教室の大



半は桂キャンパスに移動したが、その後大きな発展を遂げた情報工学の岡部教授（学部情報メディアセンター）に昨年納入された世界先端のスーパーコンピュータ室の案内や全学の頭脳たるスパコンの変遷などにつき講義頂いた。隣接する工学部建屋に貼り出された1956年3月工学部入学合格者名簿385名の中で我ら80名の名前があつた記憶は今も鮮明である。学部3、4回生のわずか2年間であつたが研究室を中心に濃密な期間を過ごした。それから64年日本が復興を果たし「Japan as No.1」とまで言われるほどの日本産業再建に聊かの貢献を果たし、今元気で当時の仲間達と共に赤レンガ前に集合できたことは、今までの度重ねてきた同窓会とは異次元の感慨深いものとなった。

その夜は京都駅前ホテルエルシエント京都に同伴家族を含め24名が集まった。我らの仲間からすでに20名を見送っており、宴会に先立ち黙祷と献杯で今までの友情への感謝と冥福を祈った。ステッキがやや増加、目や耳の部品性能劣化、酒量の減少などはあるものの半世紀にわたり産業界で活躍してきた猛者たちの意気軒高、迫力ある熱弁は途切れることなく2次会になだれ込み、京都で築いた青春時代の友情が再び確かなものによみがえる一夜となった。

翌日はインバウンドツーリストたちで賑わう日本経済の力強さを肌身に感じつつ、やや花寒ではあつたが、在京幹事の案内で春爛漫の桜を存分に楽しんだ。日本最古の蹴上発電所、花ふぶきのインクライン、広大な南禅寺枯山水の庭園、鶴亀の庭で名高い特別名勝金地院（こんちいん）の庭を散策し、京料理の締めは順正の湯豆腐を楽しんで京土産を抱え家族の待つ帰途に就いた。

3 「35洛友」に打ち止めは無い

今回は全員が米寿を迎える2025年秋の開催を約して解散した。高齢化と共に同窓会の打ち止めの話題は尽きないが、同窓会に欠かさず出席することがシニアライフの生きがいの大きなマイルストーンになっていることの想いを今回の京都での2日間で一層強くした。次会幹事の関西組、藤田、三島君達から年が変われば招待状を届けて呉れるはずでありもう今から待ち遠しい。

昭和39年卒業
60周年記念同窓会開催

留岡 寛 記（昭和39年卒）

京大電気・電子工学科昭和39年（1964年）卒業の我々は卒業60周年記念同窓会を令和6年（2024年）5月13日（月）に京大時計台下のレストラン「ラ・トゥール」において開催した。皆80歳を超えることから今回が最終会となることを考慮し、全員からアンケートを取りその結果から、「春」「大学構内」ということで今回の催しとなった。

現事務局が開催する同窓会は今回が最終、しかし現在も一部で行われている「この指集れ方式」は個人の責任で自由によつてよいこととした。

朝から雨でドタキャンが懸念されたが定刻12時予定者全員出席で開催。卒業生83名、物故者23名、居所判明者56名で今回出席者は31名、出席率55%の高率である。この5年間に亡くなった者4名に対し黙祷。留

戦いを 終えし兵待つ 赤レンガ
幾星霜 インクラインは 花ふぶき
次回は米寿 再会約し 京跡に
忠夫



岡幹事長の挨拶で開会。思えば入学した昭和35年、1960年当時電気・電子工学科は全学の中で最難関の関門であった。全学のトップも電気合格者であった。この年は60年安保と言われ政治的に荒れた年であり、このトップ合格者が学生運動に巻き込まれ、我々と一緒に卒業できなかつたことは、当に当時の世相を物語るものであろう。またこの年は所得倍増論による高度成長の始まりであった。この4年間の学生生活は今から思えば長い時期であり楽しい時期であった。この時分の友人関係は今でも主要な関係となっている。

卒業の年1964年は東京オリンピックの年、それを目標に新幹線や高速道路が建設され電子計算機が普及し始めたものであった。また我々の年代から大学院へ進む者も増えた。就職はどこもフリーパスという状況だったが、入社後は高度成長に対応すべ

く時間外労働など問題にならなかつた。皆一所懸命働きそれなりの実績を上げたと思う。今回の新機軸としてはお土産。最後の宇治分校卒業生であったことから茶に因んだ物として、百万遍近くの店の金平糖、大学同窓会事務局からも記念品が送られた。

これまで5年毎に関西で同窓会、最近では中間年に関東で開催。何時も50%以上の高率だった。55年目の開催時には「60年は軽い」と思っていたが、80歳になって健康上ガタツと来る者が多く、物覚えやPCの誤字など高齢化による活動力の低下は著しい。今回も出たいと思いつながら、近くになって体調を悪くした人、奥様の都合で出られない人が増えた。

最後ということで、全員一人一言ずつ喋って貰った。言う方は一所懸命だが聞く方は耳が遠くなっている者も多く馬耳東風の感。講義にはあまり出席せず、同窓会で顔を覚えたなど言う者も多々。「百歳の人に足下を注意された」とか入学時の「宮崎市定教養部長」に言及する者。話ではなく各個人毎のスケッチをする者などが印象的であった。その後暫し席を自由に動き自由懇談。最後はこの会で初めての『学歌』。小沢君の指導で何とか歌えた。見山幹事の閉会挨拶の後全員で写真撮影。



昭和39年電気・電子工学科卒業60周年記念同窓会 2024-5-13

皆平均寿命は超えている。平均余命をどう考えるか。いずれにしろ今の判断が求められる。明日は判らない。「一大事とは只今の心なり」という。今日を大事に生きていこう。今日出席できたことは嬉しかったし、大いに楽しんだ!

昭和39年電気・電子工学科卒業60周年記念同窓会(2)

昭和39年電気・電子工学科卒業60周年記念同窓会(1)



支部だより

平成5年度洛友会 東京支部春の見学会

寒冷や降雨が続き、桜の開花が遅れる中、奇跡的に快晴に恵まれた3月27日(水)に春の見学会を開催いたしました。コロナ禍のため、2018年以来的開催となりました。今回は東京都立川市にある国立極地研究所と昭和天皇記念館を訪れ、28名の方に参加いただきました。皆様のご協力により、新宿西口を定刻に出発しました。平日のため、一部混雑が見られましたが、10時過ぎに国立極地研究所に到着しました。

最初はスタッフの方に南極・北極科学館に併設された談話室に案内いただき、今回の見学会の準備及び対応に多大なご尽力をいただいた山岸久雄様(S48卒)と、副所長の堤雅基様(H2卒)に出迎えていただきました。

堤様からは国立極地研究所の紹介や地球環境の測定に関する興味深い講義をいただきました。電気系の研究者が活躍する一分野として大気観測があり、京都大学の生存圏研究所が設置・運用する「MURIDER」をより大規模にした「PANSY」の設置に堤様が

深く関わられました。南極は人間生活から隔絶されているためノイズの小さな環境です。この特性を活かし、電離層までの高高度領域を対象にした測定を行っているとのことでした。南極に設置するということがPANSKYには低消費電力かつ環境に配慮することが重要な要件である一方、レーダーとしての性能を確保すべく、1045本の軽量アンテナにより構成される大規模なアクティブフェイズドアレイレーダーとして設置されました。南極でアンテナを設置する場合には、穴を掘って埋めるだけで周囲が凍ることで固着し氷が解けないために簡単に工事が完了することでした。しかし設置には南極観測隊の方々が人力で行わなければならないため気の遠くなるような労力が必要であったとの苦勞話も教えていただきました。

続いて山岸様からはアイスコアと隕石についての話を教えていただきました。アイスコアは氷床を円柱状に掘削したもので内部には過去の大気が保存されており大昔の機構を知る手がかりになるものです。山岸様からは4年がかりで3000mのアイスコアを掘削し、気温の変化のダイナミズムやCO2濃度との関係性を明らかにされたとのことでした。また、南



山岸様・堤様による講義の様子



快晴に恵まれました(新宿にて)

極は世界的にも多くの隕石が発見される場所とのこと。隕石は南極以外の場所では7割を占める海に沈むか、陸地でも見つけることは容易ではありません。しかし南極では氷上に墜落した隕石が氷の昇華をとまうダイナミズムにより長い年月をかけて特定の地形に集約され、白色の氷の上に黒色の隕石が表出するためによくを発見できる環境にあるとのことでした。

講義の後には南極・北極科学館を2班に分かれて見学し、引き続きお二人に案内いただきました。講義中に出てきた内容をはじめとして専門家に教えてもらいながらの見学は非常に興味深い貴重な時間となりました。

国立極地研究所の見学後、バスに乗って「がんこ・たちかわ茶寮」に移動し、昼食をとりました。昭和初期の邸宅を改装した優美な館内で料理をいただき、話題に事欠くことなく、楽しい時間を過ごしました。昼食後は昭和記念公園内の「昭和天皇記念館」を見学しました。昭和天皇御在位五十年記念事業の一環として設置され、緑を愛された昭和天皇の生物学ご研究や昭和天皇、香淳皇后のご遺品・写真等の昭和天皇ゆかりの資料を展示しています。到着後には館長自ら出迎えていただき、集合写真



昭和天皇の御料車



タロ・ジロ像前で集合写真

の後に展示内容を教えていただき、自由に見学しました。

支部会員のみなさまの親睦を図ることができ、充実した1日を過ごすことができました。その後、バスにて新宿駅まで戻りましたが、帰り道は渋滞もあり、予定よりも遅い到着となりましたが、参加者皆様のご協力のお陰で、無事解散となりました。

最後に、国立極地研究所名誉教授の山岸久雄様(S48卒)、国立極地研究所副所長の堤雅基様(H2卒)、及び国立極地研究所の皆様にご感謝申し上げます。

関西支部総会報告

令和6年5月11日(土)、京都タワーホテル(山吹の間・2F)において、関西支部総会が53名の参加を得て開催されました。

総会に先立ち、「電力だけではない電中研の研究紹介と今後の電力システムについて」と題して講演会を開催しました。

講演会では、(一財)電力中央研究所特別顧問の美濃由明様(昭和56年卒)より、電力に限らない研究内容として、断層活動性評価、気象予測・分析、ヒートポンプの開発・評価を紹介いただくとともに、今後の電力システムについ

とお話いただき、参加者一同、大変興味深い講演会となりました。

支部総会は富岡総務幹事(平成2年卒)の司会のもと、高野支部長(昭和63年卒)のご挨拶で始まり、令和5年度行事報告ならびに決算報告があり、また令和6年度行事計画および予算編成ならびに令和6年度関西支部役員改選について審議され、承認されました。

続いて令和6年度の新役員に選任された、

支部長 安東 隆昭

副支部長 西田 篤史 (昭和59年卒)

総務幹事 富岡 洋光

(平成2年卒)(昨年からの継続)

会計幹事 樋口 昭彦

(平成15年卒)

の各氏が紹介されました。支部総会に引き続き本部総会が開催されました。

総会終了後には懇親会が開催されました。

洛友会会長の松本先生(昭和40年卒)のご挨拶の後、乾杯のご発声をいただきました。懇親会中は終始和やかな歓談の場となり、楽しい一時を過ごすことができました。最後に洛友会顧問の荒木先生(昭和41年卒)より締めのご挨拶

をいただいで散会となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響もほぼなくなり、コロナ以前の講演会や総会での活発な意見交換や懇親会での交流が実現できました。

岩根 裕典(平13年卒) 記



(一財) 電力中央研究所 特別顧問の美濃 由明様 (昭和56年卒)

第121回関西支部 ゴルフ競技会報告

〈プレー状況〉

第121回関西支部ゴルフ競技会が令和6年5月18日(土)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は晴天に恵まれ、心地よい風が吹くさわやかな天気となり、アウトは伊藤氏(S34年卒)、インは平嶋氏(S38年卒)の始球式でプレーを開始し、合計21名(うちシニア8名)が最後まで楽しくプレーを続けました。

結果は以下のとおりです。

(敬称略)

(シニアの部)

優勝 阿部 正之 (S53年卒)

2位 本島 修 (S51年卒)

3位 北野 徹 (S44年卒)

(一般の部)

優勝 前田 徹 (H5年卒)

2位 西田 篤史 (S63年卒)

3位 喜多 謹仁 (H30年卒)

また参加者は以下のとおりです。

(敬称略)

S34 伊藤 俊一

S38 平嶋 正芳

S44 北野 徹

S51 本島 修

S53 阿部 正之

S56 吉田 豊彦

S63 西田 篤史

H4 下田 一彦

H5 前田 徹

H7 一木 将人

H9 中山 正人

H26 三木 穂高

H27 小野 裕介

H28 出口 樹

- H29 藤田 秀真
- H30 喜多 謹仁
- R1 河本 昌樹
- R3 遠藤 紘矢

〈懇親会〉

プレー終了後、下田氏(H4年卒)の司会により、表彰式兼懇親会が開催されました。

懇親会は伊藤氏(S34年卒)の乾杯のご挨拶からはじまり、表彰式では、阿部氏(S53年卒)、前田氏(H5年卒)より優勝報告を頂くとともに、関西洛友会ならびにゴルフ競技会の更なる発展を期待するコメントを頂きました。

〈お知らせ〉

洛友会関西支部では同窓生の懇親を深める機会として毎年2回(春・秋)にゴルフ競技会を開催しております。次回は令和6年10月19日(土)を予定しております。同期などお誘い頂くことで老若男女を問わず多数ご参加頂けることを心待ちにしております。

〈連絡先〉

下田 一彦 (H4年卒)
藤田 秀真 (H29年卒)
連絡先 080-6222-0468 (藤田)
fujitashuuma@e3kansai-td.co.jp



第121回 関西洛友会ゴルフ競技会 参加者集合写真

中国支部総会報告

令和6年5月24日(金)、ANAクラウンプラザホテル広島およびオンライン会議(Zoom)のハイブリッドにて、第71回洛友会中国支部総会を開催いたしました。洛友会本部から佐藤高史先生にご出席いただき、中国地方各地から現地会場、オンライン合わせて19名の会員のご参加をいただきました。

支部総会は、平岡幹事の開会宣言で開会されました。前田支部長からのご挨拶に続き、支部事務局から支部会員異動状況、令和5年度の支部活動状況・会計決算、令和6年度活動計画・予算案、支部役員選任についてご説明・ご提案を行い、出席者全員の了承を得

て各案が承認されました。なお、活動計画の中で、卒業後10年以内の中国支部会員を対象に、支部総会参加費の半額を支部負担とすることとしております。来年度以降も継続いたしますので、若手の支部会員の皆様も、お気軽にご参加下さい。

続いて、佐藤先生から吉田・桂キャンパスを含む教室の近況、卒業生の進学就職状況、洛友会本部の事業、学年クラス会・支部活動費等の補助制度等についてご紹介いただきました。ご説明内容について、出席者からは最近のトピックも含めた質問があり、活発な意見交換となりました。

支部総会終了後、記念撮影を行い、高橋副支部長のご発声により懇親会を開始しました。久々に顔を



を合わせた会員同士、思い出話や近況報告等、終始和やかな談笑の中で大いに懇親を深めながら会が進み、前田支部長のご発声で、懇親会をおひらきとしました。

支部総会について、多くの支部会員の皆様にご参加いただけましたよう、開催場所や曜日等検討して参りますので、今年度ご参加いただけなかった方につきましては、来年度是非ともご参加いただきませう、お願いいたします。

伊藤 達理(平22年卒) 記

四国支部総会報告

令和6年6月7日(金)、高松市内の「J.Rホテルクレメント高松」において、第69回洛友会四国支部総会が開催されました。

教室から石井信教授にご出席いただき、四国支部からは20名の会員が集まりました。総会の冒頭では、小嶋支部長(昭和54年卒)から挨拶があり、5月11日に開催された洛友会役員会(京都タワーホテル)の様子についてのご紹介のほか、本年度の支部行事の予定や新規支部会員の獲得に向けた意気込みについてお話しいただきました。

次に、石井教授から、本部における令和5年度の主な事業報告と

京都大学電気系教室の近況(4年ぶりの歓送会の開催や、先輩と学生との交流会の様子、情報学研究科および通信情報システム専攻の改組、教員の異動状況)について、ポイントを絞って丁寧にお話しただきました。聴講した支部会員は、自らの学生時代を思い起こしつつ、本部での活動がコロナ禍前に戻っていることや、年々少しずつ変わっていく大学の様子を感じ取りながら興味深く聞き入っていました。

また、本年も「学年クラス会・支部活動費等の補助」についてのご紹介をいただき、支部内では「支給額が物価上昇に追いついていないか、会員間の交流・支部行事



第68回 洛友会四国支部総会 令和6年6月7日 於 JRホテルクレメント高松

の活性化につなげられるよう引き続き活用を検討したい」と、同制度の話題で盛り上がりました。

その後、四国支部幹事から、令和5年度事業報告・会計報告と令和6年度予算案についての説明があり、満場一致で承認されました。

総会終了後は、四宮先輩(昭和41年卒)の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。石井先生や久しぶりの友人・先輩とお酒を酌み交わしながら歓談しているうちに、あっという間に予定の時間となり、最後に恒例となっている「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の合唱で会を締めくくりました。その後、石井先生と有志会員一同は同ホテル21階のバーにて、高松の夜景を眺めながら深夜まで親交を深めました。

最後に、事務連絡となりますが、四国支部では「会員サービス」の登録データとは別に、実際に四国内にお住まいの方を把握するための支部会員名簿を作成・管理しており、同名簿に基づいて支部行事のご案内をお送りしております。しかしながら、ここ数年は「会員サービス」の情報だけでご所在が分からず、支部名簿への新規会員様の追加が行えておりません。もし、四国にお住まいで四国支部事務局からのご連絡が届いていない方がいらっしゃいましたら、

四国支部事務局 美馬(※連絡先は会員サービスの同窓生検索よりご確認ください)までお気軽にご連絡ください。よろしくお願いたします。

美馬 圭介(平21年卒) 記

中部支部総会報告

令和6年6月8日(土)、名古屋駅近くの名鉄グランドホテルにて、令和6年度中部支部総会が開催されました。本部ならびに教室を代表して山本衛先生をお迎えし、中部支部からは、昭和43年卒から平成19年修士修了まで16名の会員が出席しました。

支部総会では小森支部長の開会挨拶から始まり、

- ・令和5年度の事業報告・決算
- ・令和5年度会計監査報告
- ・令和6年度事業計画・予算

の順に、下廣会計幹事、加藤会計監査の報告を元に、スムーズに議事が進行し、全会一致でご承認をいただきました。

総会終了後、来賓の山本先生から洛友会本部と電気系教室の近況報告として、電気系組織の異動の状況、卒業生の進路、エレクトロニクスサマーキャンプなどご紹介いただきました。また、山本先生

九州支部総会報告

の所属する生存圏研究所の理念・研究ミッションについてご説明いた

懇親会は、松ヶ谷副支部長の乾杯挨拶から始まり、ホテルのコー



中部支部総会 集合写真



令和6年6月8日(土)、福岡市博多区のオリエンタルホテル福岡博多ステーションにて、九州支部総会を開催しました。



況、近年の卒業生の進路などについてご紹介がありました。さらに、能見支部長からは令和6年度洛友

況報告などに花を咲かせました。また、各会員から阪本先生に対して、最近の大学や学生の状況、特

昨今の物価高で会場選びが難しくなっている状況ですが、引き続きこのような場を継続して開催して

田中 仁志(平22年卒)記



Table with 23 columns (names and dates) and 13 rows of data. Includes names like 西村尚和, 坂入吉彦, 高橋博美, etc.

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。